

全国・関東甲信越地区教頭研究大会参加報告

今年度は、第51回全国公立学校教頭会研究大会と、第50回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会が同時に開催され、千葉県千葉ポートアリーナをメイン会場に、全国・関東甲信越地区から約3400名の副校長・教頭が参加し、平成21年7月29日（水）～31日（金）の三日間にわたり盛大に開催された。

大会の主題は「生きる力をはぐくむ 豊かな学校をめざして」、副主題は「きずなを大切に 力強く未来を切り開く子どもの育成」であり、第1日目は森田健作千葉県知事等の挨拶や狸ばやしの演技があった開会行事・「地域とのきずなを通して学校力を高める」のテーマでシンポジウムが行われた。2日目は、6つの分科会に分かれて各課題に対する研究発表や討議がおこなわれ、第3日目は増田明美さんの記念講演と閉会行事が行われた。

分科会は「教育行財政に関する課題」（第3分科会）に参加した。424名の参加者が同ホール内で51のグループ（各8名）に分かれ、全体で3本の提案・発表があり、質疑とその回答、グループ協議、代表3グループの報告、講評という流れで行われた。

私は、第42グループに所属し、新潟県・東京都・京都府・大分県・千葉県3名の代表と各テーマについて協議を行った。情報交換も行うことで、他県の状況もわかり大変有意義であった。主な内容は以下の通りである。

1. 「信頼される学校づくりのための教育環境整備を目指して」 三重県鈴鹿市立栄中学校
～学校経営品質と学校評価に関する取り組みを通して教職員の学校運営参画意識を高める～

提案の概要は、「学校経営品質」の「学校経営の改善方針」と「学校経営品質アセスメント」の2つのツールを基盤にしての学校評価の在り方について、教職員意識の調査と分析結果について提案し、学校関係者評価や第三者評価のモデル校の例を紹介した。

2. 「学校・家庭・地域社会の連携による学校教育活動の充実」 群馬県沼田市立利根西小
～職員・家庭・地域への教頭の働きかけを通して～

提案の概要は、学校の家庭・地域との連携について、6つの事例（規範意識や自立心、読書習慣、学校便り、学校支援コーディネーター、外部人材活用、連携とキャリア教育）を、パワーポイントで具体的に示したり、「地域に出向いて地域に貢献する」具体例について（教頭の役割を含め）示した。

3. 「豊かな学校づくりのための教育環境整備の在り方」 千葉県千葉市立幸町第一小学校
～子どもの安全確保のための学校・家庭・地域との連携と教頭の役割～

提案の概要は、子どもの安全確保のための教頭と教職員意識、三者の連携についてのアンケート調査と結果の分析内容の報告や、三者連携のための教頭の役割と実践事例の報告。

これらの発表や討議で学んだことは、今後の東山教頭会研究や現場に生かしたいと思う。

（学校運営研究部会 中村宏樹）

全国・関東甲信越地区 教頭研究大会 千葉大会の報告

第51回全国・第50回関プロ研究千葉大会が、7月29日～31日、千葉市に、3000名余が集まり開催された。大会主題「生きる力をはぐくむ 豊かな学校をめざして～きずなを大切に 力強く未来を切り拓く子どもの育成～」のもと、9つの分科会に分かれて研究討議が行われた。

1日目は、50周年の記念式典、開会行事、基調提案、郷土文化紹介等が行われた後、「地域とのきずなを通して学校力を高める」というテーマで、シンポジウムが行われた。

2日目は、第3分科会「教育環境整備に関する課題」に参加した。県の第4・5・6課題に関わるたくさんの内容を含む分科会で、約400名が集まった。50以上のグループに分かれて、「きずな」をキーワードに研究討議が行われた。内容は、以下のようである。

①三重県鈴鹿市「信頼される学校づくりのための教育環境整備を目指して ～学校経営品質と学校評価に関する取り組みを通して教職員の学校運営参画意識を高める～」の提言を元に「学校評価」について話し合った。保護者からの回収率を上げる工夫や7月と2月に同じ項目で保護者・子ども・教職員にアンケートを取っているなど、全国の具体的な取り組みの状況を知ることができた。助言者から、「学校評価は、学校改善の要である。全職員で学校評価項目を共有化し、人間ドックと同じに、学校をみんなで健康診断していく必要がある。」、また、「人を教育環境機能としてとらえ、職員にやる気を持ってもらうためには、管理職が心をよせないとだめである。教頭は、自己評価、学校評価について宣伝マンになり、『学校評価いいね。』と役立っていることを見える形にしていくことが大事である。」等の話があった。

②群馬県沼田市「学校・家庭・地域社会の連携による学校教育活動の充実 ～職員・家庭・地域への教頭の働きかけを通して～」の提言については、「教育方針に合わせてニーズをつかむ。学校のために協力してもらうだけでなく、職員が地域に参加していくことで地域の本当の実態をつかみ、地域にある組織力を使うことができる。地域と学校の相互理解が大事である。教頭は、情報発信し、情報交換の場を設定していくなど地域コミュニティの核となっていく。」など、「地域との連携」のあり方についてたくさんの意見が交換された。

③千葉市美浜区「豊かな学校づくりのための教育環境整備のあり方 ～子どもの安全確保のための学校・家庭・地域との連携と教頭の役割～」の提言については、子どもたちの登下校時の安全指導が多く話題となった。ここでも、保護者や地域の人たちとの連携が重要なポイントで、学校と地域が双方向で関わることの大切さが強調された。

3日目、増田明美さんの「自分という人生の長距離ランナー～きずなを力に～」という記念講演を聞いて、大会が終了した。

大会全体を通じ、全国の情報にふれることができ、また、名称等の詳細は違っていても、全国で、同じように悩んだり、考えたり、取り組んだりしている仲間がいるということであらためて感じる事ができた。今後の学校運営に生かしていきたいと思う。

(学校運営研究会 瀧澤美佐子)